

会員による診断事例の発表

福井県コンクリート診断士会

技術交流会

福井県コンクリート診断士会

（石川裕夏会長）が毎年開催する技術交流会が7日、鯖江市の嚮陽会館で「会員によるコンクリート診断事例の発表」をテーマに行われ、会員約70人が参加した。

写真。

石川会長は冒頭のあいさつで、技術交流会の目的にふれ「会員間の技術者ネットワークを深めることが大切。会員がどのような業務に携わっているのかを知ること、同じような案件が生じたとき、業者間で相談や助言を行える、ネットワークの素地を生み出す」と述



べた。

また、「業務経験を共有し、会員の診断能力の向上を図ることも目的としている。診断には、技術的な見地に加えて、最終的には人間的な判断が必要。それを高めるためには経験が不可欠。経験から学び、経験からのみ判断出来る事例も多く存在する。この会を通して経験を出来るだけ共有し、培われた技術を蓄積することも、技術交流会の大きな役割」と意義を改めて強調した。

引き続き、▽ちよっと変わった損傷のご紹介（サンワコン 山崎修二氏）▽コンクリート打放し擁壁に発生した黄鉄鉱

含有骨材による変状（コンクリートテストスタッフサービス 山口富士男氏）▽維持管理における変状構造物の合理的説明事例（中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋 平俊勝氏）▽越前海岸沿岸部における橋梁補修設計の事例（サンワコン 西坂友大氏）▽二重着色法（ゲルステイン法）によるASRの判定および進行速度の推定（M・T技研 嶋瀬敏祐氏）▽コンクリート補修工事における理想と現実（北陸ロード福井事業所 兼上智博氏）の順に診断事例が発表された。発表者はそれぞれの取組みに対しての考察や工夫点、課題などについて丁寧に説明した。

事例発表後、質疑の時間が設けられ、参加者は技術向上や、発展の追求に向けて、熱心に学んでいた。